

宿縁

四月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗
本願寺派
中原寺

TEL 〇四七―三七二一〇二九二
FAX 〇四七―三七二一〇二六二

思いやりは

動詞である



大切に、安心して、そのお心にそつと手を添えていきたい、との思いから十年前に設立されたと聞いています。

「そつと」の言葉にはとても深い意味があるように思います。おのれの思いを捨てて相手の身になって行動するということでしょう。

サポートに携わっておられる皆様のご苦労に心底頭が下がります。

わたしたちは今、コロナ禍の社会状況の中で、働く場を失ったり、人間関係がぐずれ、偏見や差別に苦しんでいる人たちが多くなっていることをしっかりと認識せねばなりません。

こうした時こそ、仏教徒としての行動が問われるのではないのでしょうか。

1945年生まれのアメリカの医師「パッチ・アダムス」さんは「思いやりは動詞である」と名言されています。

アダムスさんは1945年アメリカで生まれ、父が軍人であったため、幼い頃は海外で育ちました。その父親が亡くなると、母国のアメリカに戻り、学校に通うようになりますが、なかなか学校に馴染むことができず、次第にいじめに遭うようになってしまいます。

アダムスさんはそんな現実から逃れようと病院に通い、入院生活を過ごしました。しか

し、18歳の時にこのまま問題に背を向けるのではなく立ち向かおうと思ひ立ち、自分を変えようと活動を始めます。

また何年かの入院生活の中で利益を優先する病院のあり方に疑問を持つていたアダムスは、もつと患者のことを思い、優しい医療を目指そうと医者になることを決心します。そしてアダムスは医者を目指した時の夢であった、患者のことを考え無料で治療が受けられる病院を設立します。また、精神状態と身体におこる病気や症状などの出来事に因果関係があると考え、心が癒され前向きな気持ちになる「笑い」を治療に活用しようと考え、笑いを届ける活動を始めました。

そんな彼の取り組みや無料診察が徐々に話題となり、彼を題材にした映画も公開されました。現在も彼は精力的に笑いの治療の大切さを伝えることに尽力しています。

さて、こうしたパッチ・アダムスさんの生き方や名言は、社会生活を営む私たちに何らかのメッセージを発信しています。

「愛、思いやり、気配りは概念ではなく、行動という動詞である」

「ひとを思いやるという人生を送ることによって、あなたは自分で一番深い平和と安らぎを得る」

「ひとをケアする理由はただひとつ、人間を愛しているからです」

表題の「思いやりは動詞である」について、

浄土真宗の教えに帰依する念仏(南無阿弥陀仏)も名詞でなく動詞であります。

親鸞聖人は先師元照律師(がんしゅうりつし)の言葉を引用して、「阿弥陀仏は名号(南無阿弥陀仏)をもつてあらゆる人々を摂め取られるのである。この名号を耳に聞き、口に称えらると、限りない尊い功德が心に入りこみ、永く成仏の因となって、たちまちはかり知れない長い間の黒闇が除かれ、この上ない心の平安を得ることが出来る。まことにこの名号はわずかな功德ではなく、多くの功德をそなえていることが知られるのである。」(教行信証行巻私訳)と述べています。

また、「撰取して捨てざれば、阿弥陀と名づけたてまつる」(浄土和讃)とあるように、決してあなたを捨てない、どんなことがあっても一緒にいるよ、のはたらきを阿弥陀仏というのだと教えてくださいます。

俗っぽい言い方をすれば、阿弥陀仏の慈悲心は人間(私)を愛して止まないのです。母の愛がどんなに我が子に背かれようが背かれるほど、お前の行くところ離れることはい●との一方的な親心なのです。

だから念仏の功德が我が心に入るといふことは、念仏申すところに、立ち上がっていく力が与えられるということです。それは常に願われているような自分になりたいという思いが私に深く湧いてくるということでしょう。

今、思いやりや優しさが世界中から消えていく悲しみを嘆くことは誰にでもできますが、まず身近な人から優しい言葉と笑顔を届ける気遣いの行動を忘れないようにいたしたいものです。

【寺灯雑記】

○緊急事態宣言で各法座が休止となる

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言は今年1月7日に発出され何度も延長されましたが3月21日をもって全国で解除されました。

お寺の法座も1月1日の元旦修正会こそ勤めることができましたが1月の常例法座、教行信証を学ぶ法座、婦人会、壮年会の1月の年次総会、二月の例会が中止となりました。

2月の常例法座から元通りに開催する運びとなりましたが、まったくこれほど長く影響を受けるとは思ってもいませんでした。

皆様には普段の生活にも随分影響が出ていると思いますが、感染症にはくれぐれもご用心くださるよう念じています。

○春の彼岸会並びに宿縁廟法要を厳修

3/20

昨年はコロナウイルスの影響で、寺族だけでの修行となった宿縁廟法要ならびに春季彼岸会法要が、2年ぶりに参詣者とご一緒に勤まりました。

天気予報では数日前より、春の嵐になるのでは、との予報でしたが、当日はなんとか雨に降られることなく、宿縁廟前での法要において新たに15名のかたのご遺骨が納められました。

引き続き本堂での法要では、「讃仏偈」のお勤めの後に、在家仏教協会理事長の菅原伸郎師より「かのように―西條八十の場合」と題し、お話を伺いました。

「青い山脈」「東京音頭」などを代表作に

持つ西條八十（作詞家、詩人）が、3歳の娘を亡くした悲しみの中で書かれた詩を紹介されたり、仏教における「方便（仏が衆生をさとりに導くための手だてとして説かれた教え）」について分かりやすくお伝えくださいました。

【華道の心―調和の美】

弓場洋子

(池坊華道教授・中央仏教学院講師)

☆草木と言葉を交わす☆

一輪挿しの花瓶に一輪の花を挿します。この行為は「いけばな(華道)」といえるのでしょうか？

「いけばな」の世界に「花は人なり、心なり」という言葉があります。いけた花の中に自分自身の心を表現するという事です。

花を手折る前、その花がまだ自然の中にあつた時、どのような環境で、太陽の光をどちから浴び、どの様に咲いていたのかと思いを巡らし、その花を見つめて懐く感情を花に託して表現したものであれば、たとえ一輪の花であったとしても、いけばなになり得るでしょう。つまり、冒頭の問いの答えは、いける私の姿勢次第ということになります。

ただしそれは、自分の思いのままに草木を扱うということではありません。草木を深く見つめ、その裡(うち)にひそむいのちの言葉を聞き、そこから受けるさまざまな思いをいける花に表すということです。草木の声なき声に耳を傾け、言葉を交わすことで、互いのいのちの尊さを知り、互い

に敬い、そして共に生かされて生きる喜びを感じる事ができます。

一輪にて数輪に及ぶならば、数少なきは心深し。

(一輪の花が、数輪の花と同じくらい美しいならば、数少ないということは実に風情があることである。)

室町時代に活躍した華道家・池坊専好(いけのぼうせんこう)【初代】が、千利休の茶室に招かれた折、庭に咲く一輪の朝顔を見て言つたとされる言葉です。目には見えない、一輪の花のいのちの輝きに心を打たれたのではないのでしょうか。

(季刊せいてん2021春の号より転載)

【法座・行事の案内】

◎子ども花まつり(お釈迦様の降誕会)

* 四月四日(日) 十時半から

仏さまのお話

ゲーム、フォトスタンド作りなど

甘茶をかけてお釈迦さまのお誕生日をお祝いいたします。

※ご参加のお子さんはお寺までご連絡ください。

○婦人会法座(正信偈―天親菩薩)

* 四月四日(日) 一時半

○壮年会法座

* 四月四日(日) 一時半

住職による阿弥陀経解説

参加者による座談(自力・他力)

○常例法座

* 四月十八日(日) 一時

法話：熊原博文師(戸田市正善寺)

○入門式

* 四月十八日(日) 十二時半

新しく当寺とご縁をもたれ、入門される方々に仏前で真宗門信徒のお誓いをいただきます。

ご住職より門徒式章と記念品が授与されます。

○教行信証を学ぶ(信巻)

* 四月二十四日(土) 二時

○お仏具磨き・清掃奉仕

* 五月一日(土) 十時

○婦人会法座

* 五月一日(土) 一時

◎宗祖降誕会並びに永代経法要

* 五月十六日(日) 一時

法話：ケネス田中師

(武蔵野大学名誉教授)

【四月の掲示板のことば】

「ただいま」と

「おかえり」の音が響く

家庭をしあわせという

※「YouTube 中原寺」で検索

月2回の割合で前住職が法話を配信中!